

年 組 名前:

問1 公立小中高校・特別支援学校の女性校長の割合が、山梨は ①% (昨年4月1日時点)です。47都道府県の中で最も低く、全国平均を ②% 下回っています。①、②に入る数字は何ですか。

① 「 %」

② 「 %」

問2 女性校長だけでなく、都道府県・市町村議会の女性議員の割合も山梨は最下位。全国的にも低い状況が続いています。女性管理職が少ない原因を3つ挙げてください。

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

問3 女性管理職が少ない問題点と、どうすれば女性管理職を増やせるとお思いますか。書いてください。

「問題点」 .....

「増加策」 .....

## 県内女性校長 どう増やす

#コンテナーともしに  
国際  
女性デー  
2022

山梨の女性校長どう増やす。山梨大教育学部比較教育学研究室は、全国で最も割合が低い山梨の女性校長を増やす方策を考えるイベントを開いた。早い段階で自分のキャリア形成につけて考え、管理職を目指すきっかけにしようとうと、仕事と生活の両立を考える研修プログラムが提案された。

文部科学省によると、全国の公立小中高校・特別支援学校の女性校長の割合は、昨年4月1日時点で17.7%。山梨県は7.3%で最下位となっている。イベントは県内外の大学教職

### 大学教職員ら キャリア考える



員や大学院生ら36人が参加。同大の清水徳生客員教授が「児童生徒の半分は女子。学校運営の中心が男性ばかりでは判断を誤る可能性がある」と問題点を指摘した。

女性管理職が少ない原因について、同大教職大学院生の青木英明さんは全国調査の結果を基に、「育児などを担うことが多い女性教員は、管理職になるための試験を勧められる機会が提供されにくい」「女性自身も男性の方が管理職に向いていると思う傾向が強い」と説明。「根深い性別による役割分担や無意識の思い込みがある」と指摘した。

仕事と生活の両方を考えたキャリア形成を学ぶため、青木さんは新規採用された教職初任者を対象とした研修プログラムを提案した。岐阜県が初任者に配布しているキャリア形成に関する初任者研修プログラムを提案した教職大学院生と大学関係者ら

する資料を参考に作成。事例を交えながら将来のキャリアについて考えていくほか、女性管理職の体験を紹介するといった内容を説明した。育児や産休制度など教員が持つ権利について初任者が学ぶ機会を設けることも提案した。

教員夫婦の日常から仕事と家庭の両立を探るプログラムの演習も実施。参加者から「家事を分割すべき」「職員の打ち合わせが6時からでは遅い。学校の理解がない」との意見が出た。開催に携わった同大教育学部の鴨川明子准教授は「管理職のダイバーシティ(多様性)を考えていくことは、全ての教員の働きやすさにもつながる」と意義を強調した。

イベントは2月中旬、ビデオ会議システム「Zoom(ズーム)」で実施。内容をまとめた報告書を同研究室のホームページで公開している。

〈重友優奈〉

(2022年3月5日付 山梨日日新聞 15面)